

埼玉
県立

図書館だより

第4号

昭和55年3月31日

編集 埼玉県立図書館
広報委員会

発行 埼玉県立浦和図書館
館長 石川 正明
浦和市 高砂3-1-22



「キューボラのある街」（早船ちよ作）の舞台・川口市

昭和30年代中頃、若者たちに大きな励ましと深い共感を与えた名作「キューボラのある街」は、その頃の川口を次のように描いた。
*クズ鉄や、鋳物製品をつんだ大型トラックの群が走りまわり、町の空気は埃りっぽく、町の空は煤煙でいがらっぽくスモッグを漂わせている。このキューボラやゴシキの熱気がこもって、鉄臭い町。
と。いま、この街は工場移転や炉の改良などによりその貌を変えてきた。しかし鋳物の町としての伝統は脈々とその変化の中を生き続け、ジュンたちのひたむきな青春は永遠に私たちの心を打つ。（Y）



図書館における

地方行政資料収集の意義

はじめに

「埼玉県商品表示
規程、消費者保護
条例を知りたい」
「埼玉県の水需給
の現状と将来、そ
の対策についての
資料」等々、近年
このような問い合わせや資料要求が
ふえています。自
分達の地域の事情
について知りたい、
県や市町村の行な
っている行政のし
くみや実態につい
て知りたい、とい
う関心の高まりが、
住民の資料要求と
いう形であらわれ
てきているともい
えます。またこの
ことは広く考えれ
ば、よくいわれる
「国民の知る権利
」の一つの行使と
もいえます。図書
館がこの問題に応
えていく時、必然

的にクローズアップされてくるのが
地方行政資料といわれるものです。
地方行政資料とは？
なぜ収集するのか
それでは一体地方行政資料とはど
ういう資料をいうのか考えてみま
しょう。図書館では普通、地方行政資
料というのは郷土資料のなかの一部
として、あるいは郷土資料と対し
て考えられているようですが、最近
の文献では「地域内に関するあらゆる
資料」を「地域資料」と総称し、
そのなかを「地方行政資料」と「郷
土資料」とに大別する考え方も示さ
れています。^(注1)この考え方は、従来と
かく地方行政資料という場合、行政
機関の作成する官庁資料のみを指す
ように受け取られる弊害を取り除い
たものといえます。この考え方をよ
り明確に定義づけると「その図書
館の所在する地域についてなされる
行政に関連する一切の資料」という
こととなります。この定義は非常に
明瞭であり、しかも今日図書館に求
められている地方行政資料の本質を
よく表わしていると思います。

いま図書館に求められているのは
単にお役所からのお知らせやPRの
ための資料ばかりではなく、地域の
住民がそれによって自分達をとりま
く政治や行政の実情を知ることがで
き、そのなかで問題点や疑問点を解
決していく際に役に立つ資料である
といえます。しかもそれが行政当局
の資料であれ、その他の資料であれ
網羅的に集められ、いつでも手軽に
見ることができるようになっている
ことが望ましいわけです。公共図書
館はその地域に関する専門図書館で
あるべきだ、という論もあります。
住民が地域の行政に関して知りたい
という時、その地域に存在する公共
図書館が地域性の上に立つて必要と
する資料を収集し提供することが
に、図書館における地方行政資料の
今日的な意義があると思います。県
南のある市立図書館では上越新幹線
問題に関して、新聞記事はもちろん
のこと住民運動のビラやチラシの類
まで集めて整理し提供しているとの
ことです。まさに地域性に立った資
料の収集といえるでしょう。

地方行政資料を図書館が収集する
意義として、更に考えなければなら
ないことに、行政資料としての資料
の特殊性があります。一般に行政資
料といわれるものには、発行数も
少なく、販売ルートにものらないも
のが多いようです。従って、必然的
に住民にとっては入手が困難な資料
といえます。個人の限界をこえて、
これらの資料を容易に入手（利用）
できるところは、公共図書館以外に
は考えられないのではないでしょう
か。この点からみても公共図書館が
地方の行政資料を収集することは重
要な意味をもっていると思います。

どのようにして集めるか

行政資料には、先にみたように普
通の出版物とは異なった性格がある
ため、その収集についてもいくつか
の困難性が存在します。まず問題と
なるのは資料収集のための出版情報
をいかに早くつかむかということです。
行政資料については現在のとこ
ろ刊行目録の類はあまり期待できな
い状況ですので、結局のところ、職
員の目と耳と足をフルに活用して情
報をつかむ以外にこれといって効果
的な手段はないようです。

次に問題となるのは、つかんだ情
報をもとにいかにか確実に資料を入手
するかということです。地方行政資
料の大部分を占める自治体の刊行物
はそのほとんどが販売ルートにのら
ないため、いきおい寄贈してもらう
こととなります。そのためには積極
的に図書館における行政資料の必要

久喜図書館六月三日にオープン

県の東部地域をサービスエリア
とする県立久喜図書館がいよいよ本
年六月三日に開館することになり、
いま職員が総力をあげてその準備に
取り組んでいます。

同館は久喜駅から徒歩一五分、久
喜市下早見の久喜市役所新庁舎に隣
接した六〇〇〇㎡の敷地に、総工費
七億五千万円で建設されました。
三階建て、延べ面積三三〇〇㎡で、
図書収蔵冊数は二五万冊、開館時
には八万冊が備えられる予定です。
一階には、子ども室、集会室、視
聴覚室、対面朗読室があり、二階は



公開図書室で、調査相談、新聞雑誌、
郷土資料のコーナーも設けられてい
ます。二階には会議室、読書相談室、
研修室、管理室等があります。

特色のある活動としては、読書の
習慣は子どものうちにという考え方
に立って、子どもの読書普及のため
のボランティアの養成が計画されて
います。その他読書関係の各種事業
も実施して東部地域の文化センター
としての役割を果たし、さらに各市
町村立図書館等との密接な協力によ
り、この地域の図書館サービスの充
実を図ることをめざしています。
(電話〇四八〇一一二六五九)

高まる利用にこたえて

一般的にあって、図書館における
行政資料の利用は、まだそれほど多
くはないようです。この原因として
は二つのことが考えられるかと思ひ
ます。一つには、行政資料に対する
図書館自体の取組みが遅れているた

こんな資料があります

一 県刊行の統計資料の一部
◇埼玉県統計年鑑 ◇埼玉県勢要覧
◇埼玉県市町村勢要覧 ◇統計から
みた埼玉県の地位 ◇統計でみるさ
いたま ◇学校教育統計書……



浦和

約六千冊の点字図書が

視覚に障害のある方のために

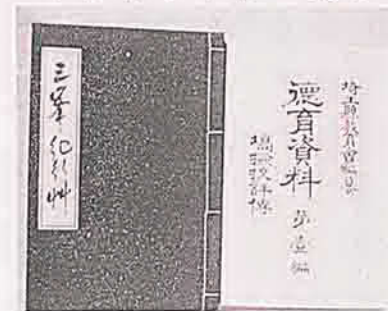
県立浦和図書館が、視覚障害者の皆さんに対して、点字図書の貸出サービスを始めました。昭和28年のこと。当時県内には、類似の施設は全くなかった。公共図書館としては、全国的にも珍しかったのです。さらに昭和29年から、点訳奉仕運動を始めました。これも埼玉県では最初のこと。これ以後県下各地で、点訳奉仕運動が盛んになりました。また、厚生省が昭和30年から、点字図書の製作と貸出委託を始めると、当館は埼玉県における、その受入施設に指定されました。そのころ当館は「埼点」という略称で、利用者から親しまれたものでした。その後、身体障害者福祉に対する、世論の高まりとともに、県下にも昭和40年代から、視覚障害者に対する、専門福祉施設も整備されて来ましたが、その中であって当館は、業務開始以来蓄積された資料と経験をもって、障害者奉仕のため努力しています。

蔵書について
当館には、現在約二、二〇〇点六、

復刻叢書の刊行を開始

今年度は「三峯紀行舛」など二点

当館が今年度から始めた復刻叢書の第一、二巻として、江戸時代の埼玉県を描いた「三峯紀行舛」(文化五年松岡本固著・和装本)と、児玉町出身の偉大な国学者堀保己一の足跡を記した「徳育資料第一編」(明治四一年小泉秀之助執筆・埼玉県教育会編刊)が刊行されました。この復刻叢書は、現在入手し難い郷土関係図書を復刻して各市町村立図書館等へ配布し、広く利用して頂くことを目的として企画された事業で、来年度以降も年二冊づつ刊行する予定となっています。



おはなし会
1階鑑賞室
毎月第1・4土曜
午後3時～
3時30分～10歳
以下の子どもを
対象に

コンサート・映画会 1階鑑賞室
第3土曜レコード・コンサート
4月19日―これが電子音楽だ
5月17日―フランク・ムジカ(マニクス・デ・プラタ) 6月21日―ベート・ヴェン特集 午後2時
第2土曜映画会
4月12日、5月10日、6月14日
午後1時30分―上映内容等については視聴覚課へ(内線30・31)
施設を一部改善しました
一階ホール隣に車イス用トイレを
設け、さらに入口を自動ドアとし
子供室前から点字ブロックで示し
ました。又、正面玄関と子供室入
口も自動ドアとなりました。

清水美江コレクション目録

浦和市の川柳作家清水美江氏(詳細は2号に掲載)が収集され、当館に寄贈された、川柳雑誌を中心とするコレクションの目録を刊行しました。(収録タイトル数千三百、本文頁数65頁、3月末刊)

熊谷

映画音楽を作る

大畑摩也氏
講演要旨

―映画と音楽鑑賞の集いから―

当館では、本年度文化活動推進事業の一環として、市町村立図書館との共催で映画と音楽を結びつけた催しをつぎの三会場で開催しました。
。六月九日・行田市中央公民館
。九月八日・深谷市中央公民館
。一月十二日・熊谷市立文化センター

ター

映画は文学作品を上映し、音楽は映画音楽に焦点をあて、さらに「映



(昨年九月・於深谷青年の家)

画音楽アラカルト」と題して、深谷市在住の映画音楽ディレクター・大畑摩也氏が講演を行いました。この講演で大畑氏は、次のように語っています。

「映画をより効果的に表現するために、音楽構成は非常に重要です。制作にあたって、まずシナリオに合わせ、撮影現場に赴いたりしながら曲全体の流れを練ります。撮影、映画構成が終わると、音の吹き込みが始まります。楽符作りは、吹き込みの三、四日前なので、大変な速さで作らなければなりません。音符を書いているゆとりはありませんから、五線紙上に点を打っていきます。したがって、普通考えられているように、ピアノ等の楽器を伴いながら作曲してはいけません。また、楽団のメンバーも洗練された人達で構成されていなければなりません。例えば、初めての楽符をその場で見て、数分の練習の後、すぐに弾きこなせる能力が要求されますから。

映画音楽の制作で最も大事なこと

者手帳の番号を添えてお申込みください。お申込みは、電話・郵便でも結構です。申込みされた方には、点字の目録をさし上げます。貸出しは郵送でもできます。現在までに、利用者として申込みされた方は、三八名です。

点訳奉仕について

最初にふれましたが、当館では、点訳奉仕者養成のため、通信教育を実施しております。点訳技術の修得には、かなりの根気が必要ですが、熱意があれば、どなたにもできます。経費はかかりませんから、ご希望のかたは当館へお申し出ください。

は、映画の場面と一抄の狂いもなく、ピタリと合うように作ることです。音楽がはみ出たり、足らなかつたりということでは困ります。そのためにも腕のみがかった演奏者が集められているのです。指揮者はタクトと時計を持ち、画面を見ながら演奏し録音して行きます。記録映画などの場合には、話し手の邪魔にならぬような配慮もしなければなりません。映画の作曲には日時等の制約があり、困難な仕事のひとつと言えるでしょう。音楽指揮者がみな専門の学校を経ていられるといえませんが、作曲を経験している方もいます。

大澤文庫の目録を刊行

大澤文庫は、行田の郷土史家大澤俊吉氏が、研究調査のために収集された資料の一部で、およそ千八百冊から成っています。

大澤氏は、早稲田大学文学部大学院終了後、同大講師を経て、関東短期大学教授として教鞭を執っておられ、かたわら行田市史編纂に従事され、また多くの行田の歴史に関する図書を著している方です。

当館に寄贈された図書は戦前に刊行されたもので、内容も多岐に渡



仕事をしているという、いつも音楽に接していると思われがちですが、実は、そうではありません。音楽とは無関係の趣味を持ち、普段は音楽をつとめて聴かないようにしているのです。これは新しい曲を作るに際して、既成の曲に似ないための配慮なのです。

この講演で、映画音楽制作上の苦労が明らかにされ、どの会場でも参加者に大きな反響を呼びました。

なお、五五年度にも同種の企画が予定されておりますので、近くで開催された折には、お出かけ下さい。

ていますが、特に社会科学関係書が多くなっています。

今回これらの図書を利用しやすいように「大澤俊吉氏寄贈図書目録」を刊行、県内の図書館等に配布しましたので、ご利用下さい。

レコード、録音教材を個人で鑑賞するためのコーナーが、視聴覚課に設けられています。定員は四名。レコードは約六百枚あります。利用時間は月・金曜日九時～十六時三十分、土曜日は十二時三十分まで。問合せは電話二五二二六六七(視聴覚課直通)へ。

飛躍的に増加した図書の貸出

蔵市立図書館は、市制施行二十周年記念事業の一環として、昨年六月十日に新館が開館しました。

蔵市西口から徒歩で十分、地下一階、地上三階建てのスマートな建物。延床面積は一八〇〇㎡で、一階は事務室・整理室・開架貸出室、二階は参考資料室を中心特別資料室・読書室・研究室、三階は会議室と書庫からなっています。

開館以来のサービスの重点として、一、貸出を伸ばす一貸出中心の図書館、二、児童へのサービス一図書館の成長の基盤づくり、三、サービス網の整備一公平なサービスを中心にして運営をしてきました。その結果、一月末までの約八ヶ月

県内図書館めぐり

蔵市立図書館

間で、総貸出冊数が一九二、四六五冊、全人口に対する登録者の比率は二二・六％という高い利用実績をあげることができました。

このように飛躍的に利用が伸びた要因には、貸出返却業務へのコンピュータによる機械処理の導入、新鮮で魅力的な図書の増加（図書購入費二三五〇万円）、児童へのサービス徹底することによってお母さんやお父さんの利用層の開拓ができたこと、集会活動として文芸講演会（年二回）、講座・お話し会などを実施して、利用者と図書館の結びつきの深化に努めてきたことなどが考えられます。

今後の課題としては、利用者の要

児童奉仕研究会の課題

「星の王子さま」の著者であるサン・テグジュペリは、その巻頭の献辞で「おとなは、だれも、はじめは子どもだった。しかし、そのことを忘れずにいるおとなは、いくらかいい」と書いている。一口に子どもの視点にたつて、と言うが、頭ではよく理解しているつもりでも、容易なことではない。



求に応じて読書案内・読書相談・レファレンスサービスをするための書誌類の整備があります。そして

子どもと本を結び、児童図書館員にと、昭和49年以来、埼玉県公共図書館協議会の行事として、月一回の研修会がもたれ、現在に至っている。館種を問わず、誰もが必要とするものというところで、本を主体とした催しが多い。一見華やか、に、豊かに見える児童書の世界も、子どもばなれと言うのか、読者は

誰なのか、という問題を含んでおり、子どもの側には、不読者と言われる層の拡大がうかがえる。

国際児童年は終ってしまっただが、子どもへの関心の、この高まりを、そのままに長く持ち続け、子どもと子どもの本を、考え続けてゆきたい。



川越

作家との対話とおして読書の幅をひろげようという趣旨のもとに、一月十四日、前日の大雪の残る、県立川越図書館集会所で、日本文学大賞、読売文学賞を受賞した「死の棘」の著者、島尾敏雄氏を囲むつどいが開かれました。

島尾敏雄氏を囲み読書会

「死の棘」めぐり活発な話し合い

参加者は百名を越え、特に今回は男性の参加が目立ち、二十余名も出席していました。中には、好きな作家なので是非にと休暇をとって出席した方もあり、終始活気に満ちた話し合いが続けられました。



当館では、このほど人間教育事務所の協力により、昭和五十四年度入間地区PTA機関紙コンクールに入賞した小・中学校PTA機関紙を集めました。

小・中学校PTAの事業等も紹介されています。

このコンクールは毎年行なわれていくものですが、来年度からはこれを契機に、コンクールに参加したすべての学校の機関紙（現在入間地区には小学校が一四五校、中学校が六九校あります）の寄贈を受けることになりました。

PTA機関紙には、各学校の動向、特色のある教育活動やPTAの事業等も紹介されています。

新着フィルム紹介

せむしの仔馬 七三分
走れメロス 二〇分
さきわか物語 古代東国 二五分
わたんべとすばらしい仲間 四〇分
いつもどこかに本がある 三一分
図書館と子どもたち 市立図書館の児童奉仕 三〇分
実践的スキータクニック 二〇分

利用申込みは視聴覚課まで

日本の花火三五分
日本人はどこからきたか 四二分
穂高岳歌 三二分
お母さんに乾杯 乱塾時代における母親の態度 二九分
愛のかけはし 手話にみつけた生きがい 三〇分
ふれあい 一ある老人と青年の物語 三一分



郷奄美群島への帰住、鹿児島県立奄美分館長への就任等の体験を経られています。こうした生活をおして描かれた戦争体験、夢の世界、病妻などの作品群は特色のある世界を築いているといわれています。

つどいは、始めに島尾氏に約一時間、離島での生活や文学遍歴を語っていただき、引き続きテーマとなっている「死の棘」について対話形式で話し合いが行われました。参加者の殆んどが氏の作品の熱心な読者であることから、質問も広く、深い内容のものとなりました。私小説といわれる作品のとりえ方から、長編小説を書かれた動機、夫婦のあり方、夫の立場と話題が発展し、参加者の読後感、体験談も発表され、予定時間をはるかにこえて話し合いが続き、終了後も著者を囲んで語る姿が見られるほどでした。

女の生き方をさぐるために

女性史に関する本

五年前の国際婦人年を契機にして女性の社会進出にはめざましいものがあります。ウーマン・リブからキヤリア・ウーマンということばが日常化しています。昨年は国際女子マラソン大会が日本で開催されました、今年になっては女性初の大使も誕生しました。

女性の社会・経済的地位の向上をめざす八〇年代への課題のとりくみは、まず過去の女性の歩みを理解する

本のひろば

含めた読みやすいものです。「中国女性史」は、太平天国の乱から現代にいたる中国百年の女性通史。「アメリカ女性史」は、著者が英米の生活体験をもとに、古い衣を脱ぎ捨て新しいライフ・パターンを模索しつつ翔びたつアメリカ女性の生き方をみつめたものです。

埼玉女性の生きざまを書いた本が最近出版されました。「埼玉の女たち」(荻塚一三郎、さきたま出版会)

です。これは、古代から戦前までの埼玉にゆかりのある女性二四人をと

なかせんどうの書き方は?

問 中山道は、中山道とも書かれますが、どちらが正しいのでしょうか。

答 五街道の名前の由来について、道中奉行の記録を集めた『駅肝録』では次のように記しています。

- 一 東海道 海端を通り候
- 二 付海道と可申候
- 一 中山道 只今迄ハ仙之字書候得とも向後山之字

書可申事

一 奥州道中 是ハ海端を通り不申候間海道とハ申間敷候

- 一 日光道中 右同断
 - 一 甲州道中 日光道中同断
- 右之通向後可相心得旨(正徳六年)申四月十四日(中略)被仰渡候
- また、『木曾路名所図会』(文化二年)には

東山道岐嶺路 俗に中山道といふ。南に東海道あり、北に北陸道あり、其中にあればかく号也。

という文も見られます。近藤義雄(中山道・みやま文庫刊)、今井金吾(太陽コレクシヨン地図・平凡社刊)両氏は先の駅肝録に従い、中山道を正式名称としています。

ちなみに、現在使用されている高校日本史教科書でも、中山道と表記されています。

りあげ、それぞれの時代に生きぬいた埼玉の女を描いたものです。女医第一号、第二号となつた荻野吟子、生沢クノなど埼玉女性の活躍とその対照的な生き方が興味をひきます。少し古いものでは、「サンダカン八番娼館」(山崎朋子、筑摩書房)が底辺女性史的なものととして読まれています。なお、同じ著者のエッセイ集に「火種はみずからの胸底に」(筑摩書房)があり、気怪に読めて女性問題のありかをさぐる一つの手引きともなり得るものと思います。

さらに、一連のものに「からゆきさん」(森崎和江、朝日新聞社)があり、女性史を学ぶとき一度は読みたい本の一つです。

編集後記

もうすぐ四月、年度毎に貸出券を書き換える子ども室が忙しくなる時期です。入学したばかりの一年生が申込書の記入のときにやや誇らしげに小学校名を答え、また、ある子は幼い字ながらも精一杯自分の名前を書いている、そんな姿に図書館のカウンターの中でも春を感じます。

本号でふれた図書館の地方行政資料、積極的に御利用ください。

おたすねください